

# ご挨拶

## 未来に託せる 持続的なまちづくり

只見町長 渡部 勇夫



明けましておめでとうございます。

令和五年の初春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。町民の皆様におかれましては、つつがなく輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、国際的にみれば、国と国の紛争が続く、国同士がグループ化し、核の取り扱いの話題もニュースになるなど非常に緊張感の増す世の中になってきました。

加えてそれが原因で様々な物が値上がりとなり、明るい兆しが見えません。

国内では元総理の突然の訃報から端を発し、旧統一教会の問題が一躍取り上げられ、急遽それらの活動を規制するための新たな法案が可決しました。

その後、防衛と増税の話題と、まさに目まぐるしい事柄が次々と起こっています。

只見町においては、昨春は只見高校の二十一世紀枠全国選抜高校野球大会出場、そして本大会で強豪校相手に会津勢初めての一点を獲得する素晴らしい活躍がありました。

秋には十一年ぶりにJR只見線が全線運転再開を果たし、只見小学校体育館で国土交通大臣や福島県知事をはじめ多くの関係者の方々と共に記念式典を挙行することができました。

これもひとえに町民の皆様はじめ国、県、会津地方や沿線の自治体関係者や

JR東日本、並びに工事にあたられた関係会社、全国の鉄道ファンなど多くの皆様のお力の賜物です。改めまして心より感謝申し上げます。

本年は、この素晴らしい出来事を一過性に終わらせることなく、持続的な取り組みにしていかなければなりません。

只見町は人と自然の共生をまちづくりの根幹に掲げています。

文化活動や産業活動も当然その考えを融合させる町づくりを標榜しており、私たちは落ち着いた話し合いをしながら、未来の子どもたちに託せる持続的なまちづくりを目指してまいりたいと思います。

只見線の全線運転再開は、紅葉の時期とも重なり、多くの方々にお越しいただきました。一方受け入れ態勢の課題も明らかになりました。

JR東日本に列車ダイヤの改正を町議会と共に要望していくことはもちろんですが、只見駅舎の課題についても話し合いをしていかなければなりません。

また、町としましては、季の郷湯らりと会津ただみ振興公社の経営実態を直視し、観光誘客・案内等の機能を含め三者が一体的に取り組む経営体制を目指してまいります。

農業においては、只見地区と梁取地区の圃場整備が本格化してまいりますので、この事業の推進と共に新たな地区の調査も行つてまいります。

美味しい米づくりや南郷トマト、花きの栽培農家が持続的経営ができるよう支援してまいりたいと考えています。

商業においては、商工会とプレミアム商品券の発行額や時期の改善を協議しながら、地元商店の振興と町民の皆様の生活応援をしてまいります。

製造業においては、経営者・事業主の方々と積極的な意見交換を行い、それぞれの業種に合った支援制度を共に考え、町議会とも協議しながら支援を行つてまいりたいと考えております。

医療・保健・福祉・介護・生活支援においては、引き続き体制の充実に向けてまいります。

特に認知症になり、財産管理等の判断が難しくなり、その結果不利益を受けないよう、本年4月から成年後見制度推進のための組織を設けたいと考えております。

大まかな事柄は、申し上げましたが、四月には町の組織を再編し、推進を強化してまいりたいと考えております。

改めまして町民の皆様、並びに町議会のご理解をいただかなければ何ひとつ成し得ません。心からのお力添えをお願い申し上げます。

年頭にあたり所信の一端を申し上げますとともに、本年が町民の皆様にとりまして良き年でありますようご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます、ご挨拶といたします。

# 新年の

## 政策提案のできる 議会を目指して

只見町議会議長 大塚 純一郎



あけましておめでとうございます。  
只見町議会を代表して、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日ごろから議会活動に多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、いったん終息の兆しを見せた新型コロナウイルス感染症は変異を繰り返して、感染力がより強いウイルスの出現により、町内でも感染者数が急増し、各地域の行事や各種イベントの自粛を余儀なくされました。また、ロシアがウクライナに軍事侵攻し、世界平和を脅かした衝撃的な事件は、改めて平和の尊さを再認識した出来事で、今なお続く痛ましい戦闘が早期に解決し、平和と安定が実現するよう願ってやみません。

日本経済を取り巻く状況は、ウクライナ情勢やアメリカとの金利格差による急激な円安などにより、原油、天然ガスなどのエネルギー資源や原材料、食料などの価格が高騰し、住民生活や地域経済に大きな影響を与え、不安と緊迫感が漂う一年であったと感じています。

町内においては、只見高校野球部が春の選抜高校野球大会で甲子園初出場という快挙を達成しました。只見町の若い力が、全国の強豪校を相手に躍動

する姿は、町内はもとより、過疎化の進む全国の中山間地域に勇気と大きな感動を与えてくれたものと考えております。長谷川監督をはじめ選手の皆さんの頑張りにより、改めて敬意を表するとともに、支えていただきました多くの皆様方に心から感謝を申し上げるしだいでありたい。

また、十月一日にはJ.R只見線全線運転再開の夢が叶いました。様々な困難を乗り越えての再開であり、関係する全ての方々のご支援、お力添えに對しまして感謝を申し上げます。また、今後とも力強いご支援、ご協力をお願い申し上げます。

さて、本町は一段と少子・過疎・高齢化が進行し課題が山積しております。令和八年度の開通に向け工事が進む国道二八九号 八十里越道路は、本町経済や町民生活に大きな変化が予想されます。単なる通過地点にしないため、観光客や交流人口の増加に伴う経済対策や受け入れ対策及び、通年通行に伴う冬期間の除雪対策や、町内国道の狭隘区間の整備など、新しい時代に備えた環境づくりにも努めて参ります。また、当町の豊富な山林資源の利活用については、将来に向けて持続可能な地域づくりのため、公共投資や政策的支援など十分に議論して参ります。更には、幼児期から一貫した子育ての推進対策についても、これからの子育て支援の

在り方について施策の選択に努めて参ります。この他にも様々な課題が山積しておりますが、しっかりとした議論を重ね課題の克服に努めて参ります。

議会は二元代表制の下、最高意思決定機関という基本的な役割に加え町民の目線で町の業務を監視・評価し、更には政策提案する役割と使命があります。只見町議会としましては「町民の皆さんと共に歩む議会」を実現するため、議会だよりの発行や、議会報告会、一般会議などを通じて皆さま方の声をお聞きし、町政に反映させるとともに、議会改革を更に推進するため、議員間の政策討論を通じて「政策提案のできる議会」を目指し、町政課題に取り組んで参ります。そして議会と当局は、互いに研さんし合いながら、町民の意思を尊重し、只見町発展のため全力を尽くして参りますので、尚、一層のご指導とご支援をお願い申し上げます。結びに、新しい年が皆さまにとりまして幸せと希望に満ちた素晴らしい年となりますようご祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。

